Empirical Studies on the Effect of Form-focused Instruction

“聚焦于形”教学实证研究

张文丽◎著

知识产权出版社
全国百佳图书出版单位

Empirical Studies on the Effect of Form-focused Instruction

本书是教育部人文社科研究一般项目“日语中介语系统显性知识和隐性知识测试体系的建立及应用研究（编号PYJA740107）”的成果

“聚焦于形”教学实证研究

张文丽◎著

知识产权出版社
全国百佳图书出版单位

责任编辑：熊　莉　　责任校对：董志英
文字编辑：欧玉萍　　责任出版：卢运霞

图书在版编目（CIP）数据

“聚焦于形”教学实证研究／张文丽著. —北京：知识产权出版社，2013.8

ISBN 978－7－5130－1585－1

Ⅰ.①聚…　Ⅱ.①张…　Ⅲ.①第二语言－外语教学－教学研究　Ⅳ.①H09

中国版本图书馆 CIP 数据核字（2012）第 238965 号

“聚焦于形”教学实证研究

“Jujiaoyuxing” Jiaoxue Shizheng Yanjiu

张文丽　著

出版发行：知识产权出版社
社　　址：北京市海淀区马甸南村 1 号　　邮　　编：100088
网　　址：http：//www.ipph.cn　　邮　　箱：bjb@cnipr.com
发行电话：010－82000860 转 8101/8102　　传　　真：010－82005070/82000893
责编电话：010－82000860 转 8176　　责编邮箱：xiongli@cnipr.com
印　　刷：知识产权出版社电子制印中心　　经　　销：新华书店及相关销售网点
开　　本：880mm ×1230mm　1/32　　印　　张：7
版　　次：2013 年 8 月第一版　　印　　次：2013 年 8 月第一次印刷
字　　数：167 千字　　定　　价：25.00 元
ISBN 978－7－5130－1585－1/H·092（4433）

出版权专有　侵权必究
如有印装质量问题，本社负责调换。

序

張文麗さんの博士論文がこのたび本として出版されることになり、この研究が中国の日本語教育関係者に広く知られるようになることを、張文麗さんの指導教官を務めた者として、大変嬉しく思います。

張文麗さんが学位を取得した日本言語文化研究プログラムは、政策研究大学院大学と国際交流基金が連携して運営する大学院博士課程です。本プログラムが一般の大学院と異なる点は、すべての学生が海外（日本以外の国）で日本語を教える非母語話者の現職教員であることです。張文麗さんは、他の学生たちと同様、長年の日本語教育実践の中から研究のタネを見出し、実践に還元することを目指した研究を行いました。張さんの研究は、中国の大学生が夢中になって視聴するドラマを、単なる娯楽材料でなく、日本語学習の材料として最大限に生かすためにはどうしたらいいかという問題意識から発したものです。以下では、この問題意識が研究として実を結ぶ過程に注目して、この研究の特徴を述べたいと思います。

学習者にドラマを通して日本語を学習させるための最も直接的な方法は、日本語学習の教室でドラマを教材として扱うことです。ただ、この方法では、無数にあるドラマのうち一本か二本を扱うことしかできません。また、学習者によって異なる多様な興味や関心に対応することもできません。一方、現代の学習者は、授業以外の自由な時間にドラマを見る設備と機会を持っています。張さんは、日本語指導を教室内で完結させずに教室外へと波及させ、自発的なドラマ視聴において自立的な日本語学習ができる学習者を育てることを目標にしました。つまり、教室内の指導は、そこで視聴するドラマの日本語について教えるだけでなく、むしろ他のドラマを見る時に学習者が使う学習方略を教えることに重点を置くことにしたのです。

張さんは、このような考え方に基づいて指導を設計し、学習者がドラマを視聴する際の「気づき」が指導の前後でどう変わるかを検証しました。指導の詳細や検証の結果については本書を読んでいただくとして、ここでは研究に使われた二つの方法論を取り上げます。いずれも他の研究にも使える方法ですから、本書を読む際に、ご自分の研究にどのように適用できる可能性があるか、考えながら読んでいただくといいのではないかと思います。

一つは、発話思考（think aloud）という研究方法です。学習者がドラマを視聴する時、何に気づいているか、すなわち何を学習しているか（学習していないか）を調べるのに、張さんはこの方法を使いました。発話思考とは、その人が何を考えているのか、頭に浮かぶことをすべて発話してもらうことで、学習者の頭の中を可視化する方法です。ドラマを見ながら何に気づ

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

いているのか、或いは、文章を読みながら何を理解しているのか、学習課題にどのように取り組んで回答を引き出しているのか等々、これまで見たくても見られなかった学習者の「頭の中」をこの方法である程度明らかにすることができ、より効果的な指導法の開発につなげることが考えられます。

もう一つは、学習者の文法項目の習得を測定する方法です。文法項目の習得は、これまで筆記試験で測ることが多かったのですが、「『知っている』ことと『できる』ことは違う」と言われるように、必死に記憶を辿って筆記試験で正答しても、その項目が「できる」、すなわち習得したとは言えず、本当の「習得」を測る難しさが指摘されてきました。張さんは、第二言語習得研究の成果を導入した測定方法を使い、「知っている」ことではなく、「できる」ことを測定することに挑みました。その詳細は本書で紹介されています。

上で紹介した研究方法は、いずれも万能・万全ではありませんが、張さんには、これらを使った研究を続けることで、方法論を精緻化すること、また後進の若手研究者に広めていくことを期待しています。一人でも多くの方が本書を手に取り、中国の日本語教育の将来を支える研究に共に参画していただけたら幸いです。

国際交流基金
横山紀子
2012 年 12 月

前　言

近年来，随着互联网的普及，网络外语资源愈加丰富，中国学生的外语学习环境发生了很大变化。与此同时，二语习得研究和二语教学研究发展迅速，很多新的研究成果不断涌现。但是，作者在长期专业外语教学实践中发现，中国大学的外语课堂并没有完全适应新的学习环境的变化，新的研究成果也并没有被充分采纳。基于网络外语资源极大丰富的现状，本书作者以中国大学日语专业学生为对象，以日本的电视剧等较为真实的日语输入为教学素材，采用第二语言习得领域的研究热点之一——“聚焦于形”（Form-focused Instruction）为教学手段，深入开展教学实证研究，取得了一定的研究成果。

本书对二语习得和教学研究中最基本的一些问题给出了答案，例如：学习者在理解内容的过程中会在多大程度上注意到语法形式？教学方式会对学习者的“注意”产生多大的影响？“聚焦于形”的教学手段会对学习者显性知识和隐性知识的增长有怎样的效果？同时，本书在外语习得的研究方法上也具有一定的创新性：一是利用有声思维法尝试将学习者大脑中的认知活动可视

化；二是首次在日语习得研究中开发了显性知识和隐性知识的测试工具。

本书共分为七章。第一章为研究背景和研究目的。第二章主要介绍了认知派研究者的二语习得模型和二语教学实证研究的重要成果，并分析了该领域研究中的争议与不足。第三章至第六章是本书的主体部分，翔实阐述了作者所进行的三项研究的过程与结果，获得了如下成果：一，学习者在收看日剧的过程中“注意”集中在内容理解上，很少留意语法形式；二，接受“聚焦于形”教学的学习者，与接受传统的“内容理解”教学的学习者相比，在教学结束后观看其他日剧时会较多留意语法形式，认知比较等促进习得的认知活动也更加频繁；三，“聚焦于形”教学与传统的“内容理解”教学相比，对学习者显性知识和隐性知识的增长有一定的效果。第七章为本书的综合讨论部分，总结了本研究的主要成果，讨论了这些成果对二语习得与教学研究的启示和实践意义，最后指出本研究在研究方法方面的贡献。

本书对教学一线的教师具有重要的参考价值。第一，传统的教学随意性、经验性较强，本书在二语习得研究成果的基础上，提出了符合二语习得规律、切实可行的教学方案，并且实际教学效果得到有效验证。第二，中国学生学习外语时接触自然真实的外语输入机会少，往往难以掌握地道的表达方式，本书提供了在外语教学环境中有效利用网络资源促进二语习得的教学实例，可供日语教师参考借鉴。第三，本教学方案旨在通过对语法项目使用规律的发现学习，提高学生学习的自主性，符合当今外语教学的基本原则。

本书以作者的博士论文《学習者の認知活動に働きかける指導に関する実証的研究—ドラマ視聴時の「気づき」に焦点を当

てて —》为基础，加入了近两三年国内相关研究的成果，对原有内容进行了部分修订。本书是2012年度教育部人文社科研究一般项目“日语中介语系统显性知识和隐性知识测试体系的建立及应用研究（项目编号PYJA740107）”的科研成果，在西安交通大学人文社会科学优秀学术文库基金的资助下出版。

国际交流基金的横山纪子老师对作者和本书的编写给予了指导和帮助，值此本书出版之际，谨向横山老师及所有关心和支持我的老师、同事、家人表示诚挚的谢意。

目　次

第１章　序論 …… (1)

1.1　問題意識 …… (3)
1.1.1　新たな学習リソースの拡大 …… (3)
1.1.2　中国の日本語教育の問題点 …… (5)
1.2　研究の目的 …… (7)
1.2.1　ドラマ視聴の実態解明の必要性 …… (7)
1.2.2　認知活動に働きかける指導の必要性 …… (8)
1.2.3　習得の測定方法を改善する必要性 …… (10)
1.3　研究の構成 …… (11)

第２章　先行研究 …… (13)

2.1　言語習得に必要な認知活動 …… (15)
2.1.1　第二言語習得のモデル …… (15)
2.1.2　言語習得に必要な認知活動 …… (17)
2.2　第二言語の指導に関する先行研究 …… (20)

2.2.1 指導方法の分類枠組み …… (20)
2.2.2 指導テクニック …… (22)
2.3 指導効果の検証：習得の測定に関する先行研究 …… (25)
2.3.1 暗示的知識と明示的知識の関係 …… (25)
2.3.2 暗示的知識と明示的知識の測定 …… (28)
2.4 指導効果の検証：プロトコル分析に関する先行研究 …… (33)
2.4.1 プロトコル分析 …… (33)
2.4.2 プロトコル分析の妥当性と信頼性 …… (37)
2.4.3 プロトコル分析を用いた研究の事例 …… (39)
2.5 まとめ …… (44)

第3章 研究方法 …… (47)

3.1 コースの概要 …… (49)
3.2 対象者 …… (50)
3.3 データ収集 …… (52)
3.4 「気づき」の調査 …… (54)
3.4.1 調査の材料 …… (54)
3.4.2 即時回想法の実施 …… (54)
3.4.3 プロトコル・データの分析 …… (56)
3.5 指導方法 …… (56)
3.5.1 指導に用いた素材 …… (56)
3.5.2 指導の手順 …… (57)
3.6 習得の測定 …… (64)
3.6.1 暗示的知識の測定 …… (64)

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

3.6.2　明示的知識の測定 …… (72)

第4章　【研究Ⅰ】ドラマ視聴における「気づき」の分析 …… (77)

4.1　分類の枠組みと研究課題 …… (79)
4.1.1　「言語」「文化」「その他」の分類 …… (80)
4.1.2　「言語」の下位分類 …… (82)
4.1.3　研究課題 …… (86)
4.2　結果 …… (87)
4.2.1　研究課題（1）の結果 …… (87)
4.2.2　研究課題（2）の結果 …… (87)
4.3　考察 …… (89)
4.3.1　研究課題（1）の結果に対する考察 …… (89)
4.3.2　研究課題（2）の結果に対する考察 …… (94)
4.4　まとめ …… (104)

第5章　【研究Ⅱ】指導効果の検証：「気づき」の変化 …… (107)

5.1　研究課題 …… (109)
5.2　結果 …… (111)
5.3　考察 …… (114)
5.3.1　「形式」と「意味」に関する「気づき」 …… (114)
5.3.2　「使用」に関する「気づき」 …… (118)
5.3.3　実験群の指導効果 …… (123)

5.4 まとめ …… (126)

第6章 【研究 III】指導効果の検証：習得の促進 …… (129)

6.1 研究課題 …… (131)
6.2 結果 …… (133)
6.2.1 暗示的知識の習得 …… (133)
6.2.2 明示的知識の習得 …… (135)
6.2.3 ドラマの内容理解度 …… (138)
6.2.4 結果のまとめ …… (138)
6.3 考察 …… (139)
6.3.1 暗示的知識の習得 …… (139)
6.3.2 明示的知識の習得 …… (149)
6.3.3 ドラマの理解度 …… (153)
6.4 まとめ …… (154)

第7章 結論 …… (157)

7.1 本研究の課題と回答 …… (159)
7.1.1 【研究 I】ドラマ視聴時の「気づき」の分析 …… (160)
7.1.2 【研究 II】指導効果の検証－「気づき」の変化 …… (161)
7.1.3 【研究 III】指導効果の検証－習得の促進 …… (164)
7.2 本研究の意義 …… (165)
7.2.1 理論的貢献 …… (165)
7.2.2 教育的貢献 …… (166)

7.3　今後の課題 …… (168)

参考文献 …… (173)

資料 …… (187)

1　即時回想法の実施 …… (189)
2　指導前口頭模倣テスト …… (191)
3　指導前文法性判断テスト …… (194)
4　指導後口頭模倣テスト …… (200)
5　指導後文法性判断テスト …… (202)

第１章

序　　論

1.1 問題意識

本節では、まず、インターネットの普及による新たな学習リソースの拡大について述べる。次に、研究のフィールドである中国の大学における日本語教育の問題点を指摘し、第二言語習得研究（Second Language Acquisition）の知見に基づいた指導法でこれらの問題点に対応する必要性を主張する。

1.1.1 新たな学習リソースの拡大

中国における日本語教育の規模は非常に大きい。国際交流基金が2009年に行った調査では、学習者数は韓国に次いで世界で2番目に多い82万人に達し❶、その過半数は高等教育機関で学ぶ学習者である。現在、中国の大学では日本語学科の新設と既存学科における定員増の影響で、日本語を専攻する学習者が急増している。

中国の日本語学習者のように、日本以外の国で外国語科目として学ぶ日本語を「外国語としての日本語（JFL：Japanese as a Foreign Language）」❷と呼ぶが、このようなJFL学習者は、日本

---

❶ 国際交流基金『2009年海外日本語教育機関調査』結果（速報値）：http：//www. jpf. go. jp/j/japanese/survey/result/dl/news_2009_01. pdf.

❷ 学習環境の違いに焦点を当てた時には、「第二言語」と「外国語」を区別して使うが、「第二言語習得」の「第二言語」は、特に断らない場合、その両方を指すことが多い。本研究も外国語環境での学習を対象としているが、「第二言語」という用語を使う。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com